

# お 泉 水

1996年3月1日

## ■平成7年度全国図書館大会

平成7年10月25日～27日、新潟市で「日本海からのメッセージ生涯学習社会と情報化時代の図書館サービスをもとめて」というテーマのもと、第81回全国図書館大会が開催された。参加者は1,844名で、本県からは6名が参加した。

第1日目は、開会式に続いて全体会が開かれ、大会副会長による基調報告、朝日酒造株式会社専務取締役による記念講演「“さけ”とは何か」が行われた。第2日目は14の分科会に分かれ、各テーマにそって事例報告、研究討議がなされた。第3日目の全体会では各分科会の報告とそれに対する質疑応答が行われ、全体会と希望者のあった分科会では手話通訳とOHPによる要約筆記もあり、参加者の便宜がはかれていた。

関連行事として「女性の戦後／児童／世界のえほん／ヤングアダルト図書の展示」「図書館・ニューメディア展」「利用のための資料保存展」「阪神大震災下の図書館写真展」「越佐の出版文化展」がひらかれ、盛会のうちに全日程を終えた。

(福井県立図書館 牧田 真理恵)

## ■平成7年度全国公共図書館研究集会

### ◇整理部門

9月20日・21日の両日、松江市において「公共図書館における資料の収集～選択を中心に～」を研究テーマに、平成7年度全国公共図書館整理部門研究集会が開催された。参加者総数290名、本県からも5名が参加した。

第1日 — 甲南大学文学部教授前川恒雄氏による基調講演「図書選択の理論と実際—私の選択論」の後、事例発表が行われた。内容は、「県立地域館における資料の収集—千葉県立西部図書館の事例」「岡山市立図書館における資料の選択」「町立みささ図書館における資料の収集」の3件であった。

第2日 — 前日行われた事例発表等をふまえ、研究・協議が行われ、多量で多様な資料をどう選択・収集し、多量で多量な要求にどう応えていくか、活発な意見交換がなされた。

(福井県立若狭図書学習センター 倉谷 さちよ)

### ◇奉仕部門

10月5・6日の両日、滋賀県草津市において奉仕部門の研究集会が開催された。「貸出しがひらいてきたもの～『市民の図書館』から25年～」というテーマのもと、

本県からの11名を含む493名が参加した。

まず、前川恒雄氏が「『市民の図書館』の25年」と題し、「貸出し」をサービスの原点と掲げ活動してきた図書館の、今後の課題などについて基調講演をされた。続いて、3館から事例発表があり、改めて貸出しの果たす役割や、全域サービスの重要性などを考えさせられた。

また、「本のある暮らし」をテーマにしたシンポジウムでは、出版者・提供者・読者という三者の立場から、市民社会と本、図書館のあり方について熱心に討議がなされ、最後の情勢報告とあわせて、図書館の専門職制、専門家としての資質向上の必要性を強く感じた。

(春江町立図書館 藤田 由佳)

### ◇移動図書館協力事業分科会

平成7年10月12日・13日の両日、三重県志摩郡阿児町の阿児ライブラリー・阿児アリーナで、「すべての図書館をすべての利用者に」をテーマに、平成7年度全国移動図書館・協力事業研究集会が開催された。参加者は約200名で、本県からは1名が参加した。

研究内容は、「小さな町村の大きな自動車図書館をめざして」「いま、街づくり『自動車図書館』」「『すべての図書館をすべての利用者に』を実現するために」の3分科会で、阿南町立図書館・和歌山市民図書館・徳島県立図書館等8館の事例発表があり、活発な研究討議が行われた。

なお、記念講演は、「幸福な日々つくりぬしの創造主」で、講師は高橋忠之氏（志摩観光ホテル総料理長）であった。

(福井市立図書館 岩本 昌宏)

## ■平成7年度東海北陸地区公共図書館研究集会

「利用されやすい図書館施設・設備を考える」をテーマに、平成7年9月7日・8日、富山市において開催された。参加者は186名で、本県からは18名参加した。

筑波大学教授富江伸治氏による基調講演は、「利用されやすい図書館施設・設備の計画」について、利用されやすい条件、求められるサービスの提供、利用しやすい図書館の計画などを、例を示しながら行われた。

事例発表は、「長久手町中央図書館の施設と運営」「わたしたちの図書館」をめざして」「利用しやすい図書館とは？～金沢市立泉野図書館の事例～」「三重県立図書館の施設・設備について」の4件で、各館におけるさまざまな取り組みが、成功例、失敗例を具体的に上げて発表された。いずれも興味深いものであると感じた。

(福井市立図書館 銅子 留美)

## 多くの人に利用してもらえ魅力ある図書館に

～ 春江町立図書館 ～

はるえ図書館は、平成7年5月11日に開館いたしました。今までは、住民の一部の人が利用するだけの小さな図書館が、公民館の一室にありました。このような中で、住民からの文化・芸術・情報へのニーズが高まり、平成3年度から文化の森整備事業がスタートし、平成7年5月10日に文化の森（YURI文化情報交流館：ハートピア春江）が、オープンいたしました。

文化の森は、「人と時・人と自然・人と人」の融和をテーマに作られ、自然と文化と芸術を備えた住民のふれあいの場であり、建物の外観は、ヨーロッパ調で宮殿風の建て方になっています。その中に、図書館（3,001㎡）、大ホール（656席）、小ホール（208席）、展示ホール（384㎡）があり、建物の前は面積が61,150㎡の広大なコミュニケーションパークとなっていて、そこに直径100mの円形広場があり、霧状に出る直径30mの噴水がある複合施設です。

図書館へ入ると、まず感じられることは、天窓からの日差しによる明るさ、そして広くゆったりとしたスペース、家具やじゅうたんなどの色のよわらかさで、閲覧机から見る風景も、利用者にやすらぎを与えてくれます。

開架室の書架は、児童書が4段の低書架を、一般書は6段（ただし、小説は4段）を使用し、閉架室には7段の移動書架を使用していますので、開架8万冊、閉架7万冊の図書を取蔵することが出来ます。現在の蔵書数は、6万6千冊あります。今までの図書館の図書は、公民館図書として残し、1億円の図書購入費でここ2、3年の新刊書を約5万冊購入し、開館しました。

雑誌は、204タイトルを揃えており、新聞は11紙、ビデオ・CDは1,200タイトルあり、ビデオの一部は館外への貸出しも行っていきます。

図書館の開館時間は、午前9時30分から午後6時30分迄で、会社帰りの人も気軽に立ち寄っていただけるようになりました。その為か、5時頃から6時頃に来られる人はかなり増えています。

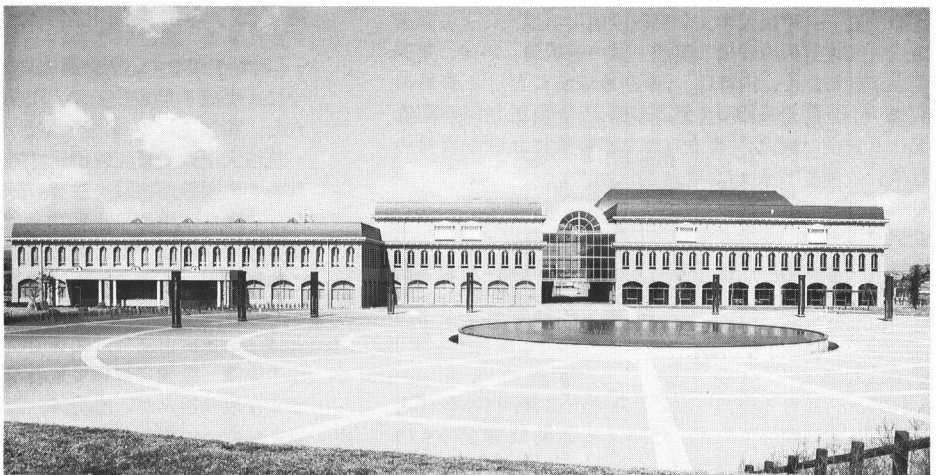
利用者の登録については、今までは、本が少なく読みたい本があっても、県立図書館までは遠くて行けなくて自分で買って読んでいた人が多かったと思います。そんな人たちに出来るだけ多く利用していただくために、住民以外の近隣の人にも受付けています。現在の登録者は約8,100人であり、町民が5,400人（春江町の人口の25%）で、町外の人が2,700人となっており、春江町周辺の人にも多く利用していただいています。

図書の利用は、5月の開館時から12月末で約15万冊の貸出冊数があり、特に夏休み期間中の8月は約2万4千冊もの貸出数となり、職員が大忙しでリクエストやレファレンスに対応していきました。

やっと春江町に本格的な図書館が出来ましたが、今までは、図書館内のサービスで手一杯でした。これからは、今少ない郷土資料を多く収集（特に、春江の町花である百合に関する情報）し、図書館資料の充実を計っていきたいものです。また、各学校・公民館とのネットワークを考え、図書館まで来ることが出来ない住民の利用を進めていくと同時に、町外の図書館や公共施設とのネットワークにより、図書館が住民の情報の源となるようにしていきます。

私たち職員は、まだ図書館経験が浅く、とにかく利用者が使いやすい図書館を作ろうと頑張ってきました。これからは、公共図書館の役割を考えながら、利用者に満足してもらえ、たえず魅力のある図書館にしていきたいと思います。

（春江町立図書館 坪田 恵吉）



# 新設図書館紹介

## ひらかれていく山のまちの図書館を目ざして

～ 池田町立図書館 ～

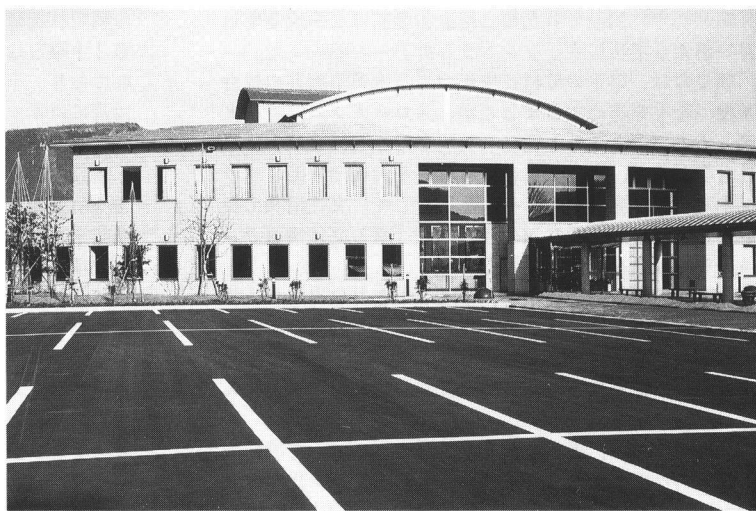
福井市の南東、武生市の東、南は岐阜県と隣り合い、美山町、今立町、南条町、今庄町、そして大野市に囲まれた池田町は、標高218.3mに位置する人口約4,200人の過疎の町です。

この小さな山あいの町も昨年、上池田村、下池田村合併40周年、町制施行30周年を迎えました。この節目の年に文化・芸術の発進拠点として「能楽の里・文化交流会館」が完成しました。この文化交流会館にはメインホールを始めとして生涯学習センター、中央公民館、そして「池田町立図書館」が複合施設として併設されました。場所は町の中心地より少し離れてはいるけれども、足羽川のほとり、中学校・小学校より歩いて15分、役場からは10分ほどの藪田地区にあります。

「池田町立図書館」としてのスタートは、昨年10月1日でした。単独館ではないけれど、町内では図書館を利用する機会がなかった年代、利用できなかった人々、自分で気軽に図書館に行くことができなかった子どもたちにとっては、「池田町立図書館」の開館は念願の最初の一步でした。

図書館の施設概要は一般閲覧室217.60㎡、AVブース4席、児童閲覧室33.56㎡（床暖房完備）、資料室30.21㎡というものです。開館当初の蔵書は開架図書10,544冊、閉架図書395冊、この他に県立図書館から2,000冊をお借りして活用させていただいています。現在では蔵書も少し増え、11,182冊になりました。このうち児童書の占める割合は約40%です。将来は35,000冊所蔵可能ということです。近隣市町村、県内の他の図書館に比べれば問題にならない少なさです。それでも、これまでの公民館図書室を考えると、図書館の入口があり、受付・貸出カウンターが設置されて「職員」が常時いるわけです。他の新設館と同様、貸出返却・資料検索、その他の蔵書管理もパソコンで行います。このことは池田町の読書人、子どもたちにすれば画期的なことであり、夢の始まりなのです。

現在の利用状況は、やはり土曜日・日曜日に貸出利用が集中し、平日は午後4時以降に児童・生徒が訪れています。毎週水曜日と金曜日には遠隔地の小学校へ移動文庫を行っています。全体として利用者の7～8割が児童・生徒ですが、最近では子どもにひかれて母親、休日には



父親、そして図書館を認識してくださった実年、高齢者の方々の利用も少しずつ増えてきました。ただ、夢にまで見た念願の図書館ですが、開館時間が火曜日から土曜日は午前10時から午後5時、日曜日は午後4時という状態です。図書館サービスを考えると、「何て閉鎖的なのでしょう。」という声が聞こえてくる気がします。今後、早急に解決されるべき課題ではないかと思えます。開館時間の延長が無理であるならば、週一日は午後7時までというように柔軟な対応ができないものかと模索中です。

開館以来、月1回、子ども対象の映画会・お話し会を開催してきましたが、今後「お話し会」は短い時間であっても、毎週末に何げなく続けられたら話し合っています。また、レファレンス・サービスも充実できるようにしたいと思います。意外な問い合わせを受けたりしますが、可能な限り回答し、県立図書館へも応援を依頼しています。

このような活動を少しずつ展開することによって、「図書館」を身近なもの、生活の一部機関として定着させたいと考えています。そして、図書館の始動を心待ちにしてくださった人々、図書館を利用できなかった子どもたち、図書館を知り得なかった人々の応援ができるよう、何よりも「住民に親しまれるひらかれた図書館」として住民主体の図書館活動を目ざし、一歩ずつ進んでいこうと思います。

(池田町立図書館 飯田 眞佐子)

## くらしの中に図書館を

～ 朝日町立図書館 ～

昭和49年に開設された朝日町立図書館は、平成7年11月に新たな場所にオープンしました。

朝日町は、県下の町村に先がけて下水道事業等の社会基盤づくりを進めてきましたが、スローガンの「泰澄大師と幸若舞のふるさと朝日」実現を目指してソフト事業にも取り組み、平成6年に日本海側最大の植物園「プラントピア」を完成させ、それと平行して、文化情報の拠点として図書館、児童館の複合施設「幸若文化情報センター」の建設を企画しました。

改築準備委員会の答申は、平成5年1月に出され、特色を泰澄大師と幸若舞に関する郷土資料の収集と、児童に対するサービスの2点とし、延面積1,500㎡、開架図書5万冊、電算化、職員等細部にわたる計画が示されました。

敷地が決定し、平成6年2月設計コンペで、古墳のある歴史的な町を象徴する前方後円墳をイメージ化した設計が採用されました。円形の図書館は、全国的にも希で、書架の配列設計に苦勞しましたが、県立図書館をはじめ関係者の助言を得て、放射状の配列が決定しました。

こうして平成7年11月に開館した施設は、延床面積1,626.61㎡、鉄筋コンクリート2階建、1階はサービスカウンター・一般書、児童書、新聞雑誌の各コーナーとAV設備があり、児童館が設けられています。書架は5万冊収容可で、2階はミニコンサート、展示、映写ができるホールと閉架書庫（7万冊収容可）等となっています。

館内は、天井からの自然光を取り入れたゆったりとした空間になっていて、中心に床暖房のブラウジングコーナーがあり、それを囲んで木製書架が配列された明るい雰囲気となっています。児童コーナーは12,000冊の図書と、児童館を兼ねたタタミの部屋があり、積木やブロックで遊ぶ親子の姿が見られます。又、事務室とカウンターはオープン化され、電算化によってとすれば失いがちな利用者と職員との人のつながりを大切にしています。AV設備の児童用ビデオは、土、日曜日はフル回転でCDは中高校生に人気があり雑誌をみながらくつろぐ風景が見られます。

利用状況は、土・日曜日の児童の利用が多く、第1、第3土曜日はボランティアによるお話しや人形劇が行われており、一般向きには古典文学や俳句の講座が好評で、12月にはオープニングコンサートを開催して、町民に生の音楽を提供しました。

施設の名称「幸若文化情報センター」として、中世の語り物芸能としての幸若舞等の文化情報基地としての、機能をもたせており、館内に幸若関係の資料展示コーナーが設けられ、現在進められている町誌編纂作業が終了すると全資料が移管されて、国内でも貴重な幸若資料保存館となる計画です。

開館以来3ヶ月を経過しましたが、利用者は当初の計画通りの人数が確保され、特に旧館当時にはみられなかった新しい利用者の増加が見られます。登録者数2,500名は満足な数字ではありませんが冬期間の数字であり、利用者増は充分期待できると思います。

今後は学校、保育所等との連絡提携、遠隔地の西地区へのサービス、ボランティア等協力者の確保と活発化、とあらゆる手段で、住民のくらしの中にある図書館となる方策を研究し、実践して行かなければなりません。図書館は行政機関の中で、直接住民と接する事のできる機能をもっている以上、ここでの職員のサービスは極めて重要です。少しでも町民のくらしに役立つ事を念頭に努力を続けていきたいと思っています。

(朝日町立図書館 玉邑 弘子)



# 談 話 室

## “金沢昔ばなし大学”の受講を終えて

グリム童話や昔話の研究者として著名な小澤俊夫氏を講師に迎え、1993年から年2回、3年間に渡って開講された「金沢昔話大学」が、昨年の11月をもって終了した。

遠い祖先から無名の人々によって語り継がれてきた昔話。多様な人生が語られ、深い知恵がこめられた人類の文化遺産としての昔話。その構成や文法を学ぶことから昔話絵本や再話の良し悪しを見分ける目や耳を養うという趣旨の下、100名余りの参加者が金沢に集まった。北陸三県の文庫関係者、お話の語り手、図書館員が主で、遠くは名古屋からの参加もあった。図書館員にとって選書というのは、最も大切で難しい、悩みの多い作業である。この講座に参加して、即選ぶ目ができたという訳ではないが、どこを見ればよいかの見当はついた気がする。そう思っただけ見れば、形のくずれた昔話の目につくこと…。

さて、いつも家で私のお話の練習につき合わされている娘も中学生である。聞いてはくれるが、同じ話ばかりは嫌だとゴネ始めた。そんな娘の気を引こうと、巷で人気の“オザケン”のお父さんに金沢で会うよと言ってみた。小沢健二のサインを頼んでノと言われてもネエ……。

(福井市立図書館 坪内 啓子)

## 一期一会 ～人・物との出会い～

私は、ゆったりした時間の“旅”が好きである。

東京で三週間の研修があった時のこと、休日を利用して、世田谷にある、閑静な木立に囲まれた静嘉堂美術館へ出かけた。数年に一度公開という、夢にまで見たいと願っていた「曜変天目茶碗（稲葉天目）」に出会えた。茶碗の中に宇宙を見るようなコバルトブルーの七色に輝く虹彩。国宝の三つある曜変天目茶碗の中で、一番華やかと言われてこの茶碗との感激の出会いであった。そして、偶然にも茶席があり、初めて逢う連客との「天目茶碗」を縁とした旅の語らいは、出会いの大切さを実感し、共に生きる喜びを味わった一日であった。

マルチメディアが発達し、インターネットの時代が到来した今こそ、自分の目で確かめる実体験の大切さが更に必要な時代になってきているものと思われる。

「…智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい…」(夏目漱石「草枕」) どの時代でも変わらぬ人の世において一期一会、人・物との出会いを大切にしていきたいと思う、今日この頃である。

(福井大学附属図書館 田中 美智子)

## ほんの雑談ですが…

久しぶりに会った友人と食事をしながら本の話になった。「この前読んだ本にこんなことが書いてあっておもしろかった…」と笑い合っているうちに“あれ？それ私も知ってるよ。”となり、結局同じ本を読んでいたとわかった。同じ本を読んでも、特に印象に残ったノという部分や受けとり方というのは人それぞれずいぶん違っているもので、そんな話を気のおけない相手と話しているとおもしろい。本を読んで感じたことを言葉にしてみると、そこには自分の内面がさらけ出されているようで時に気恥ずかしくなることがあるけれど、相手の意外な一面を垣間見ることもあり、つき合いがより深まったりする。これもささやかながら読書会なのかも。

そして、そんな友人からはよく新しい本の情報も得られる。「この本ある？」「図書館に入れて。」とリクエストされることも多い。普段話をしていても、ふと「近頃よく聞く〇〇ってどういう意味？」とレファレンス。

なにげない日常の雑談の中にも図書館の役割っていっぱい見出せる。“ちょっと聞いてみよう、話してみよう”という時に思い出してもらえるとなんだか嬉しくなる。

(勝山市立図書館 角 美津恵)

## 「別 離」

時間は容赦もなしに愛するものとの別れを運んでくる  
悲しみの闇は魂を凍らし 怒りの火炎は血肉を焦がす  
後ろめたさはいばらとなって今を永遠に縛りつける  
静かにそして確実に訪れる最後の瞬間  
運命の呪縛から逃げることはできない

1年に数回こんな気持ちになる。定期的に購読してきた「雑誌」を処分しなければならぬとき。多くはお盆とお正月前の大掃除。

日頃捨てられずにいたのは「もったいない性」か、それとも「愛書の精神」を持っているのか。

考えてみれば、週刊・月刊誌を問わず雑誌で一度読んだものを後日読み返したような記憶がない。

その点「本」は別だ。上辺を見ていただけのものも、牛の反芻のように何度か読み返すことで消化しやすくなる。一文字ひとつもじの意味を深く理解することができる気がするのだが……。

結論として、雑誌に限らず身の回りの物をなかなか捨てられないのは、まだ消化不良の状態だからに違いない。

(大飯町立図書館 木村 文紀)



## 福井地区大学図書館協議会研修会

5月の定例会議において承認された事業計画に基づき、今年度は、仁愛女子短期大学が幹事校となっており、8月29日に平成7年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会を行った。

研修内容は、福井市自然史博物館においての講話と見学、及び、福井市立郷土歴史博物館の見学であった。県内の5大学から31名が参加した。

福井市自然史博物館においては、主任学芸員の梅田美由紀氏より「福井の地質」について約30分の講話を聴講した。氏はスライドやOHPを使い、福井の活断層の位置や、地質について詳しく説明して下さった。阪神大震災の後だけに興味深い内容であった。講話終了後は、館内を約1時間かけて見学した。

福井市立郷土歴史博物館では、学芸員の足立尚計氏の案内により館内を見学した。同博物館は、松平春嶽公にまつわる貴重な史料を集めた福井市春嶽公記念文庫をはじめ、多くの郷土関係史料を所蔵している。氏の説明により、すばらしい福井の文化遺産を再認識することができた。約50分の館内見学後、研修会を終えた。

(仁愛女子短期大学附属図書館 森川 輝美)

## 平成7年度近畿地区学校図書館研究協議会

### 《大会テーマ》

「豊かな心を育み、主体的に学ぶ力を培うための学校図書館教育のあり方を求めて」

### 《日 程》

#### 第1日 10月26日(木) 敦賀市プラザ萬象

受付・開会式：9時～10時40分 大ホール

基調講演：10時45分～11時30分 大ホール

「学校図書館の現状と課題」

全国S L A事務局長 笠原 良郎氏  
公開授業：12時40分～13時30分

敦賀西小学校 2年学級活動 4年・6年社会科

粟野中学校 1年理科 2年学級活動 3年社会科

※4会場で18分科会に分かれて、36名の提案者のテーマに基づき、小・中・高の校種別の研究協議が行われた。

#### 第2日 10月27日(金) 敦賀市プラザ萬象

研究報告：9時30分～55分 大ホール

福井県学校図書館協議会 木村彰夫研究部長

実践報告：9時55分～10時20分 大ホール

開催地実行委員会 杉左近 正委員長

記念講演：10時30分～12時15分 大ホール

演題「私のメルヘン」

絵本作家・俳優 米倉 斉加年氏

閉会式：12時15分～12時30分

研修へ出発 13時

(福井県学校図書館協議会事務局長 田塾 正)

## 福井県学校図書館協議会この1年

- 5月19日(金) 第1回県学校図書館協議会役員会  
(於足羽高校)
- 5月31日(木) 第2回県学校図書館協議会役員会  
第1回県学校図書館協議会理事会  
(於足羽高校)  
(予算・決算の承認、年間行事計画の審議等)
- 6月17日(金) 第34回近畿学校図書館研究大会(福井大会)  
会場部会 (於敦賀南小学校)
- 4月～7月 第21回県小中学生読書感想文コンクール締切日(福井新聞社主催、県S L A後援)  
6月17日(土)
- 7月12日(木) 第3回県学校図書館協議会役員会  
(於足羽高校)
- 7月～10月 平成7年度文庫による読書感想文コンクール(中・高)に参加
- 7月27日(木) 研究大会第1回開催地運営委員会  
(於敦賀市)
- 9月14日(木) 第4回県学校図書館協議会役員会  
第2回福井大会運営委員会(於足羽高校)
- 9月30日(土) 研究大会開催地運営委員会(於敦賀市)
- 10月19日(木) 第34回近畿学校図書館研究大会福井大会準備会  
(於敦賀市)
- 10月25日(木) 研究大会第2回開催地運営委員・事務局会  
(於敦賀市)
- 10月26日(木) 第34回近畿学校図書館研究大会敦賀大会  
～27日(金) 兼第32回福井県学校図書館研究大会福井大会  
(於敦賀市)
- 11月10日(金) 第41回青少年読書感想文全国コンクール県予選を実施
- 1月25日(木) 第13回読書感想画コンクール実施
- 1月31日(木) 第6回県学校図書館協議会役員会  
(於足羽高校)
- 2月1日(木) 全国学校図書館協議会事務局長会議  
～2日(金) (於東京都)
- 2月15日(木) 会誌「福井県の学校図書館」第41号発行
- 2月16日(金) 第7回県学校図書館協議会役員会  
第2回県学校図書館協議会理事会  
(於足羽高校)
- 2月26日(月) 近畿学校図書館連絡協議会(於草津市)  
(7府県会長・事務局長会議) 3月  
(福井県学校図書館協議会事務局長 田塾 正)

## ■平成8年度研究集会および研修会(予定)

区 分	開催地	期 日
全 国 大 会	別府市 大分市	平成8年10月23日～ 25日
整 理 部 門	鴨川市	〃 9月19・20日
奉 仕 部 門	福岡市	〃 11月7・8日
参 考 事 務 分 科 会	福島市	〃 9月26・27日
児 童 図 書 館 分 科 会	高知市	〃 11月14・15日
東 海 北 陸 地 区 公 共 図 書 館 研 究 集 会	岐阜県	〃 期日未定
日 本 図 書 館 協 会 地 方 講 習 会	福 井 県	〃 期日未定